

福祉現場での 新型コロナウイルス 感染症陽性者発生 の対応について

社会福祉法人ひかりの園
浜松協働学舎根洗寮
工房だん
施設長 大橋奈実世

浜松協働学舎の概要





浜松協働学舎根洗寮

1997年開所

施設入所支援 定員40名

短期入所 定員9名

日中一時支援 定員10名

1階 事務所・医務室・喫茶室
みずほ・ひかり

2階 はやぶさ(短期入所)
こまち・つばめ

3階 会議室・静養室(理容)
事務局・実習生の宿泊室



工房だん (生活介護事業所) 定員20名

・うららクラス(下請け作業・鶏卵パック詰め・
入浴支援)

・やよいクラス(下請け作業・散歩)

・のどかクラス(下請け作業・散歩)

*その他

創作活動、塗り絵、折り紙、音楽鑑賞など



2週間の対応を振り返って

- 1、簡単な経過
- 2、隔離棟での支援の様子
- 3、施設の感染予防策
- 4、経過と実際の対応
- 5、職員の思い
- 6、施設長の思い
- 7、体験して見えた課題
- 8、誇れること 継続したいこと
- 9、最後に

1、簡単な経過

工房「だん」職員がコロナウイルスに感染が判明

10月31日(土)浜松協働学舎根洗寮(生活介護 工房だん)の職員1名がPCR検査を受けた結果、新型コロナウイルス陽性が判明。

濃厚接触者(感染の疑いがある利用者・職員の特定)は感染職員と接触のあった職員1名、パートスタッフ2名、利用者6名の合計9名。

同日、濃厚接触者と特定された利用者6名と職員3名に対し、保健所によるPCR検査が行われた。

11月1日(日)午後、保健所から連絡があり濃厚接触者とされたものは全員「陰性」と結果報告を受ける。職員、保護者、関係機関に情報配信。法人ホームページに掲載。

全員陰性ではあったが、保健所からは濃厚接触者については「2週間は他の人との接触は避けるように」と指示がある。濃厚接触者と特定された利用者6名のうち5名は、専任スタッフの支援のもとゾーニングされた隔離棟の工房だんを居住エリアとし、1名はグループホーム内をゾーニングし、10/31～11/13の2週間(健康観察期間内)を過ごすこととなる。濃厚接触者と特定された職員3名は自宅待機となる。

濃厚接触者以外のご利用者は通常生活を継続。工房だんは、障害者支援施設である根洗寮が実施している生活介護であり、入所施設のご利用者やグループホームのご利用者のほとんどが工房だん、工房めいに通所している。入所施設とグループホームで工房だん、工房めいのスタッフが支援を提供することでサービスを行うことを障害保健福祉課と確認し、通所施設としての事業継続を行った。また、活動場所を変更した理由は工房だんを隔離棟とし、工房めいを職員の宿泊場所としたためでもある。

11月11日(水)法人独自のPCR検査の結果、関係者は全員陰性。11月13日(金)隔離棟解散。

陽性となった職員Aの過去2週間の行動履歴については、職場と家との往復や買い物に出かける程度の外出で感染経路は不明。11月1日～12日まで指定医療機関へ入院。退院後は自宅療養し、12月7日職場復帰。

2、隔離棟での支援の様子

*もしかしてやり過ぎ??

濃厚接触者の対応なのにやり過ぎ??と思われる方もいるかもしれませんが・・・。

なぜ、ここまでの対応をしたのか

↓

- ①濃厚接触者のPCR検査の結果が陰性であっても検査後に症状が見られ発症したり、再度検査をしたら陽性だったというケースの報告がすでに全国的に多数あったこと。
- ②現在、クラスターが発生している病院の現状から考えても経過観察機関の2週間の過ごし方が大きな意味を持つということ。
- ③最小限に抑えるためには、より慎重な対応が必要だということ。
- ④とにかく保健所の指示に従って対応。



*ゾーニングと具体的な勤務

早番 7:00~16:00(引継ぎ、記録記入16:00退勤)

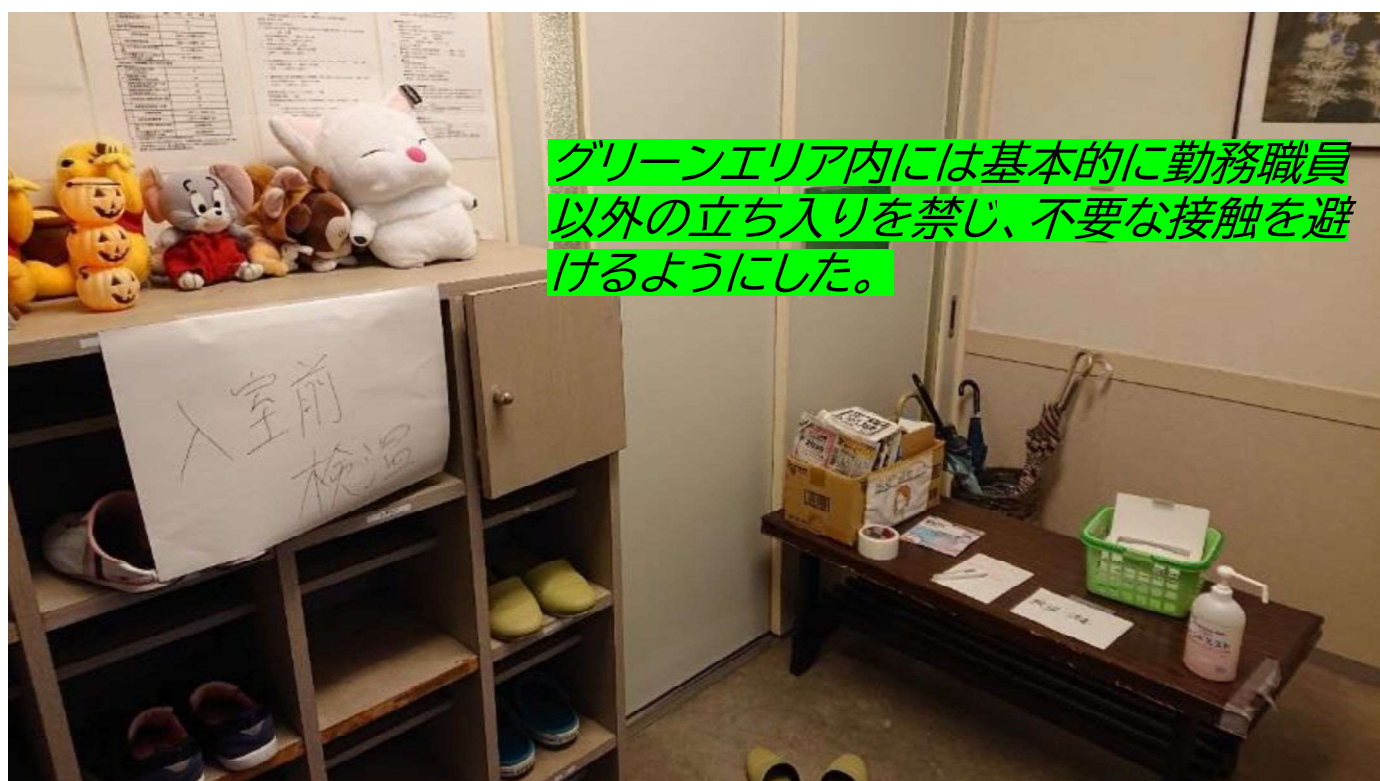
夜勤 15:00~7:00(0:00以降仮眠可)

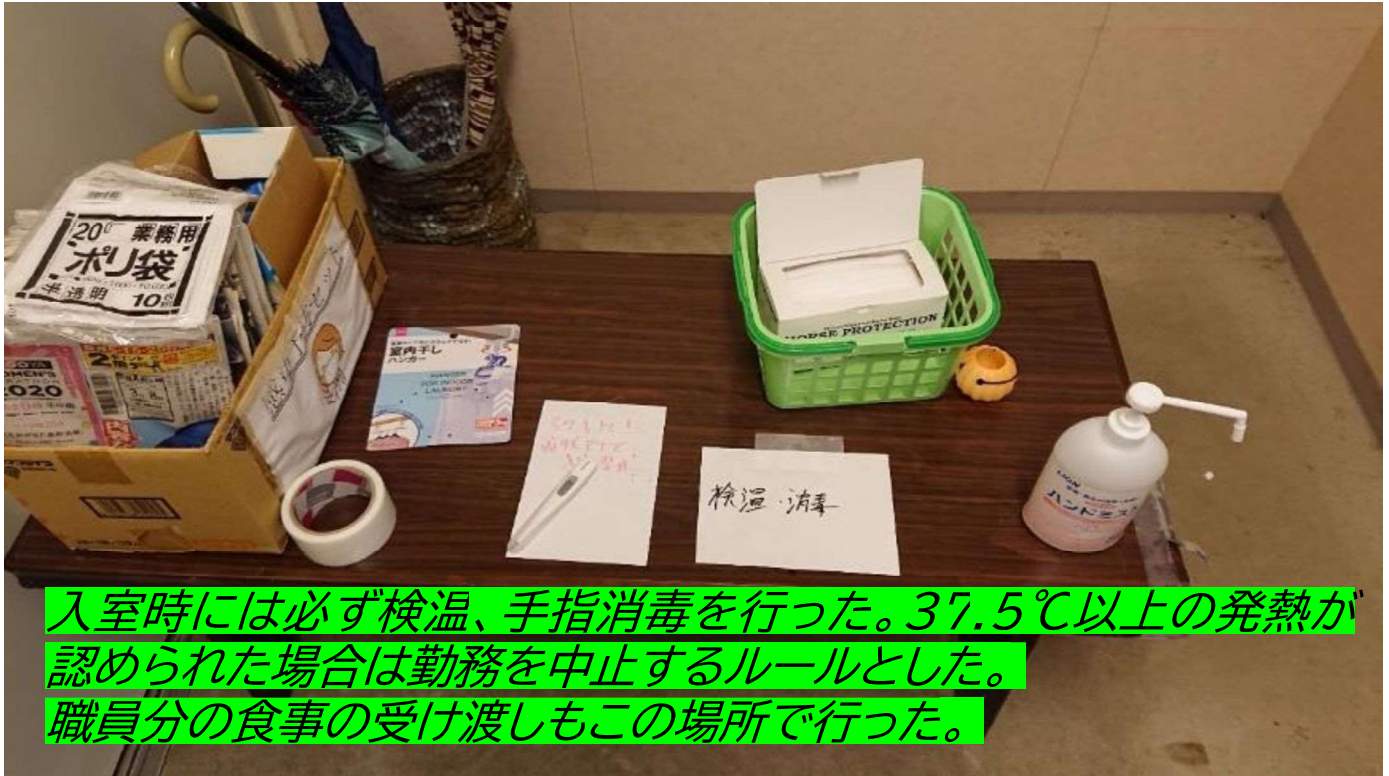
上記の勤務を専任職員4名のローテーションで対応。



グリーンエリア

(清潔作業区域の設定・管理)

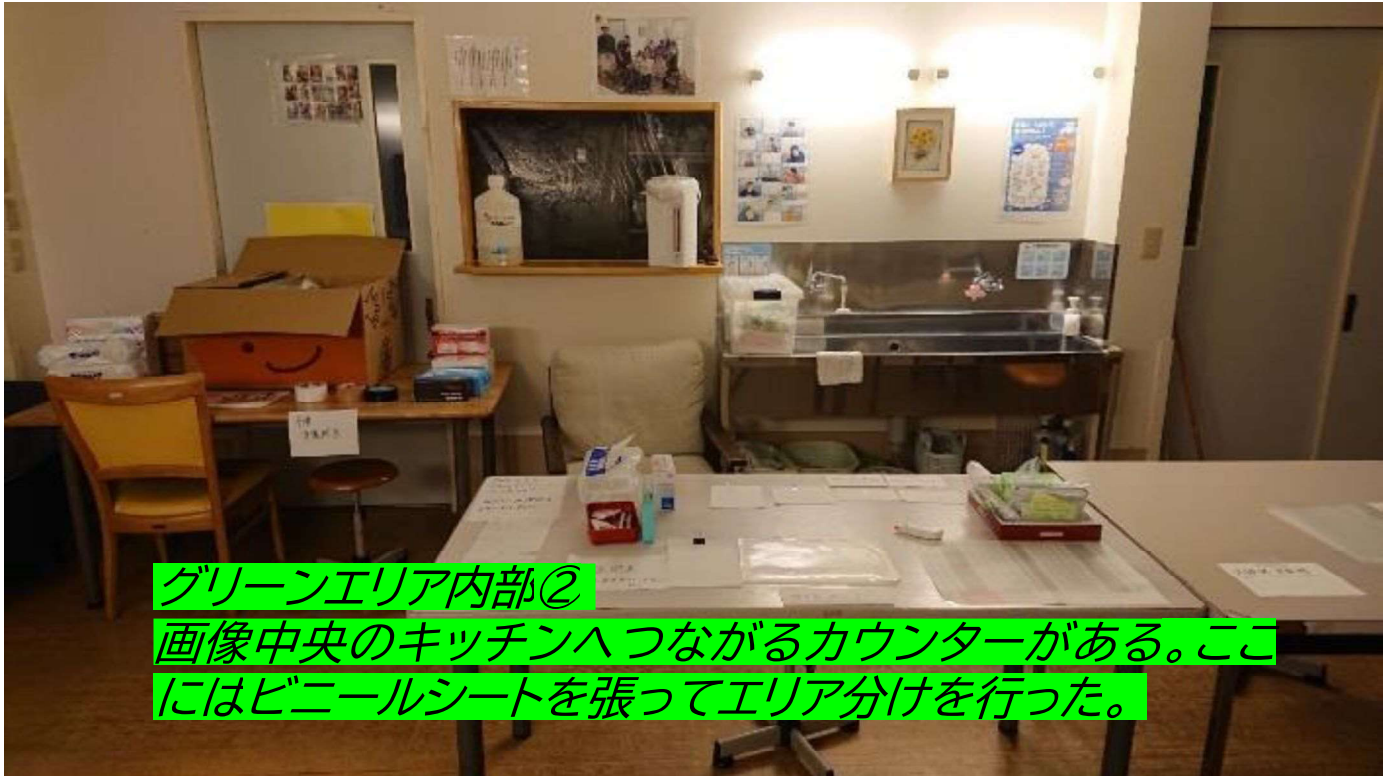




入室時には必ず検温、手指消毒を行った。37.5℃以上の発熱が認められた場合は勤務を中止するルールとした。
職員分の食事の受け渡しもこの場所で行った。

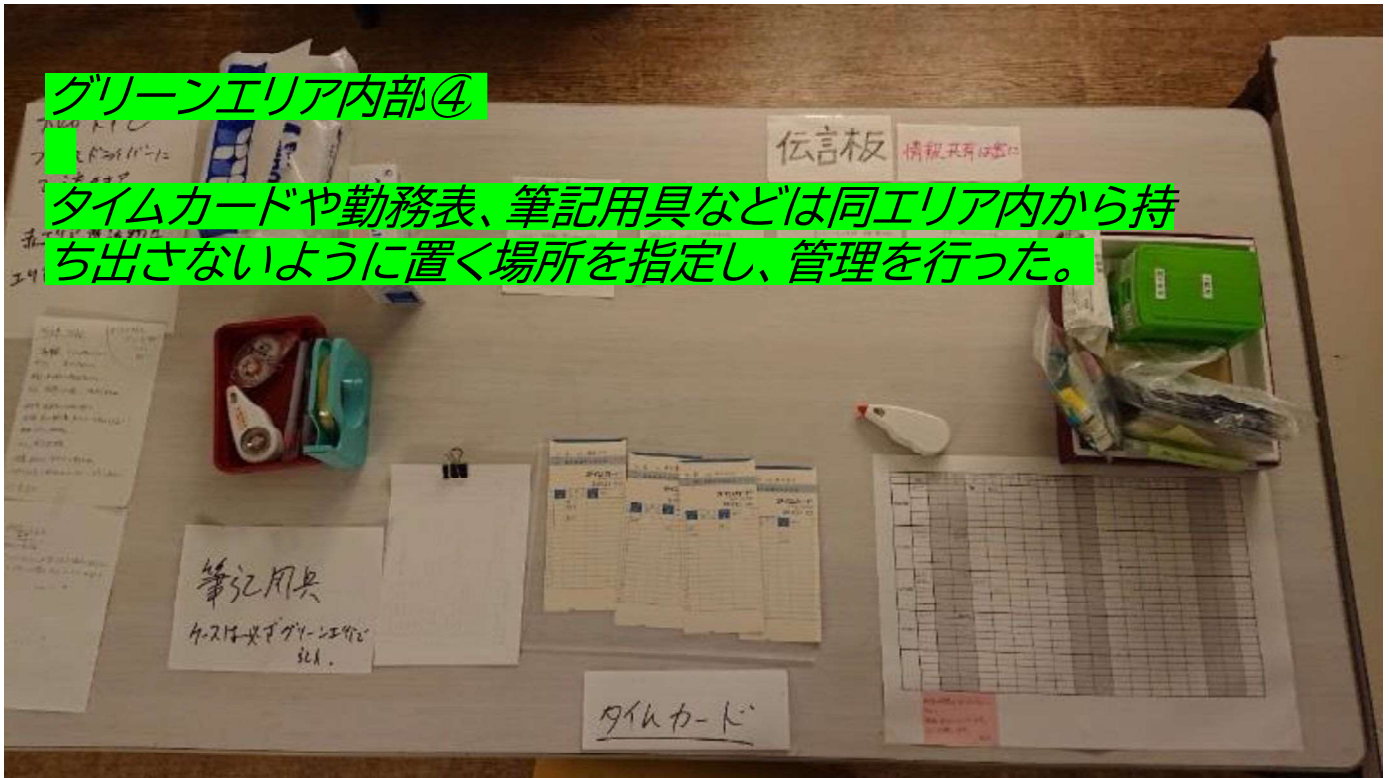


グリーンエリア内部
職員の食事やトイレはすべて同エリア内にて行った。



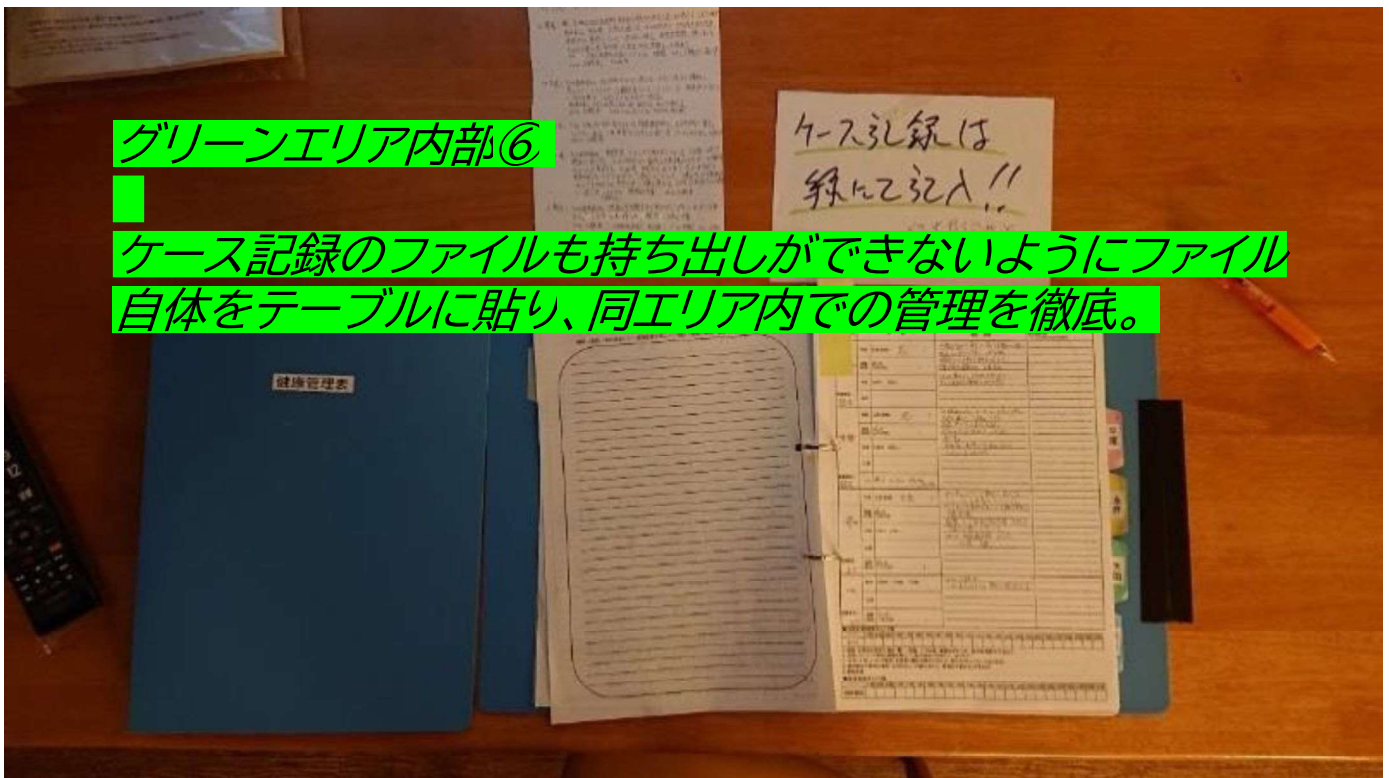
グリーンエリア内部④

タイムカードや勤務表、筆記用具などは同エリア内から持ち出さないように置く場所を指定し、管理を行った。



グリーンエリア内部⑥

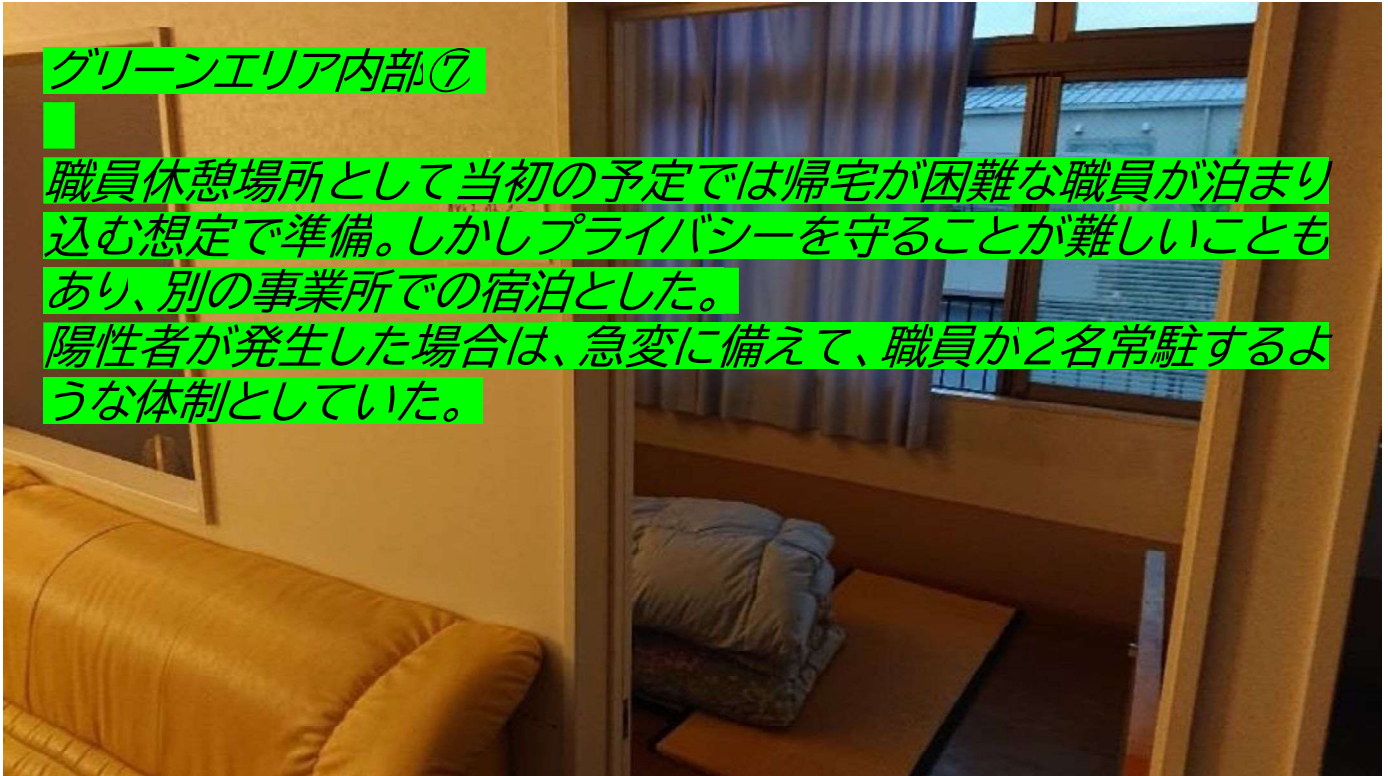
ケース記録のファイルも持ち出しができないようにファイル自体をテーブルに貼り、同エリア内での管理を徹底。



グリーンエリア内部⑦

職員休憩場所として当初の予定では帰宅が困難な職員が泊まり込む想定で準備。しかしプライバシーを守ることが難しいこともあり、別の事業所での宿泊とした。

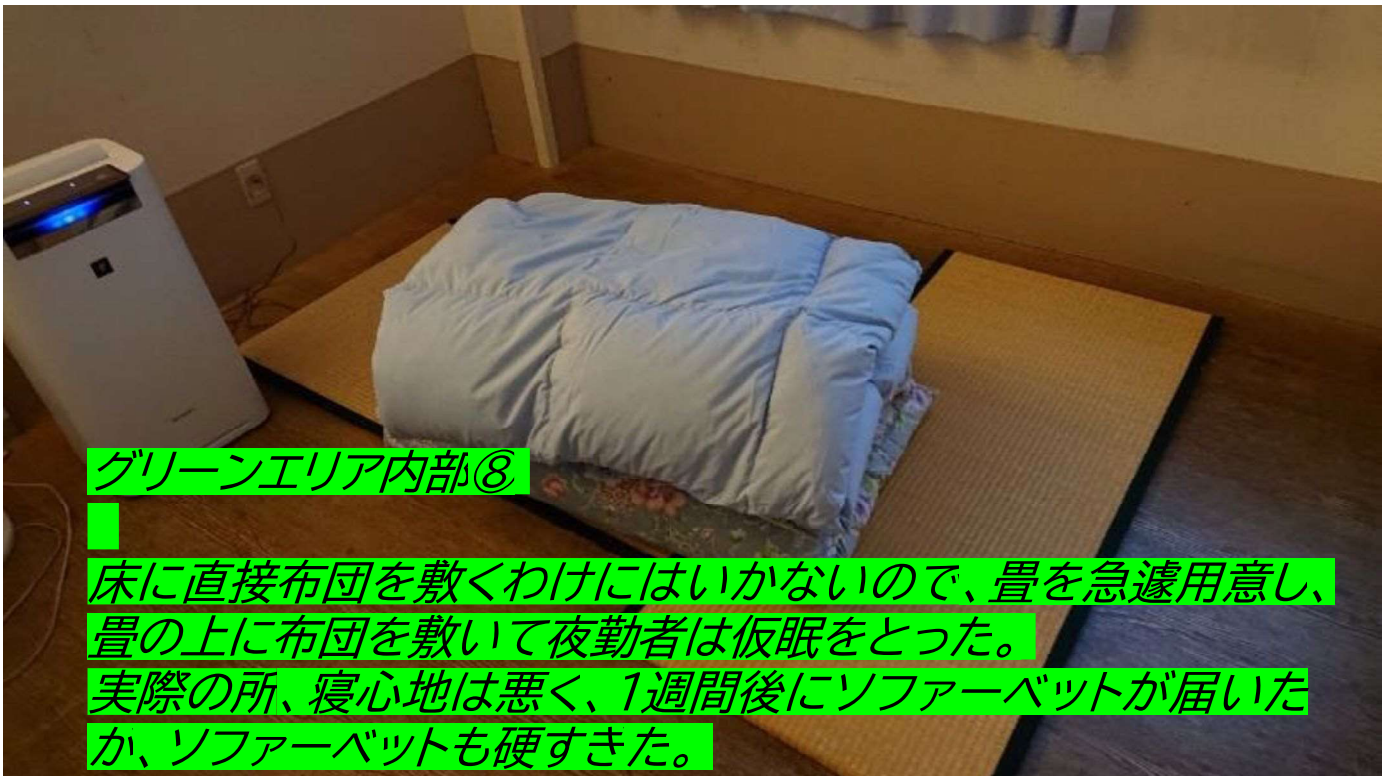
陽性者が発生した場合は、急変に備えて、職員が2名常駐するような体制としていた。



グリーンエリア内部⑧

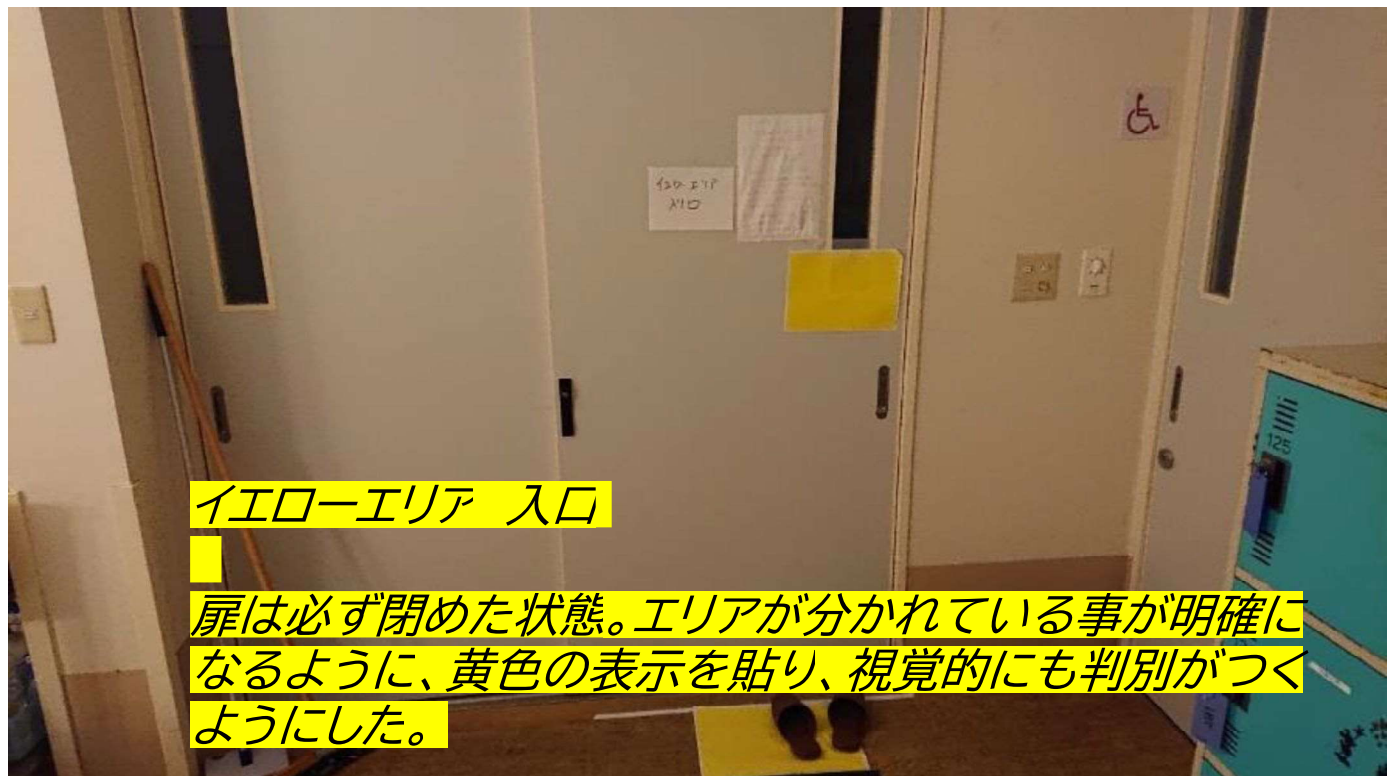
床に直接布団を敷くわけにはいかないため、畳を急遽用意し、畳の上に布団を敷いて夜勤者は仮眠をとった。

実際の所、寝心地は悪く、1週間後にソファベットの届いたか、ソファベットの硬さも悪かった。



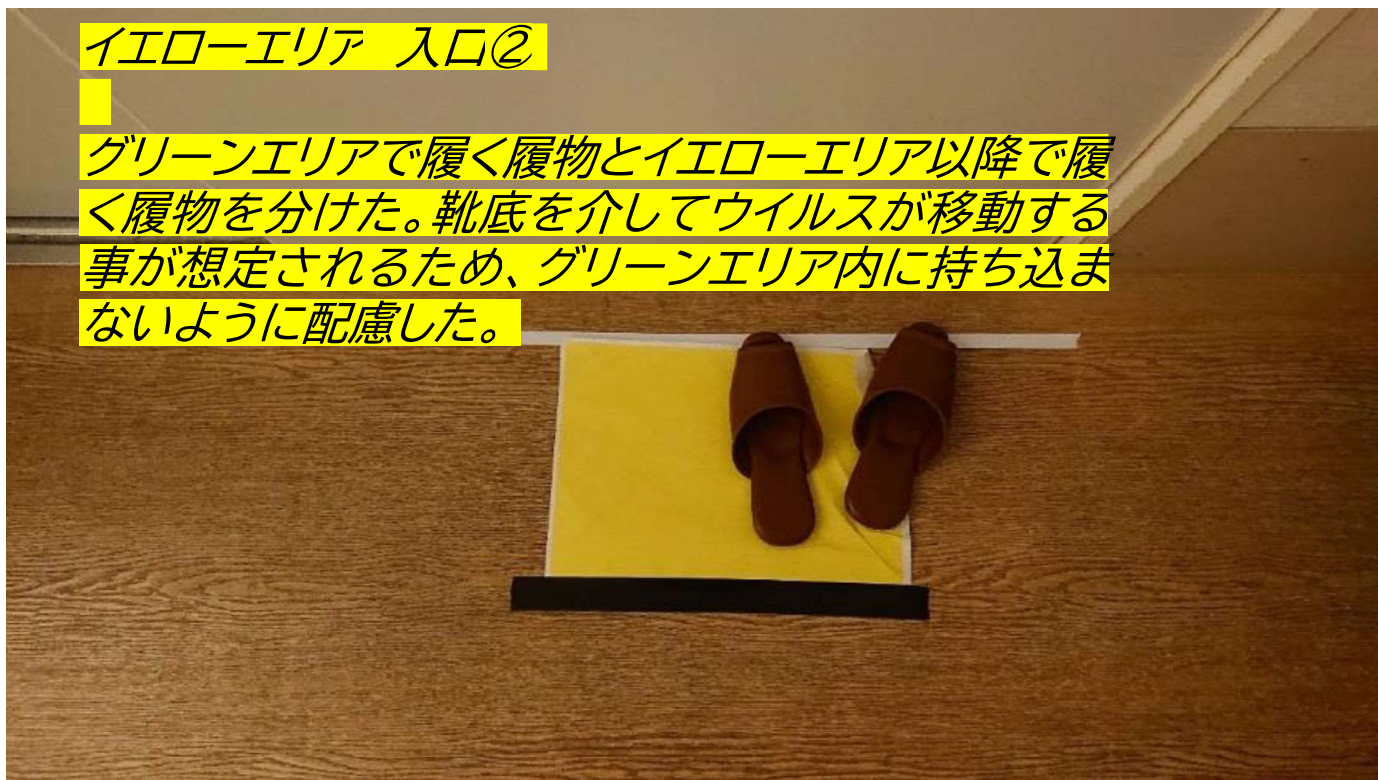
イエローエリア (準清潔作業区域)

主に防護服の着脱や、消毒・除菌を行い、レッドエリアとグリーンエリアを完全に分けるエリアとしての役割がある。



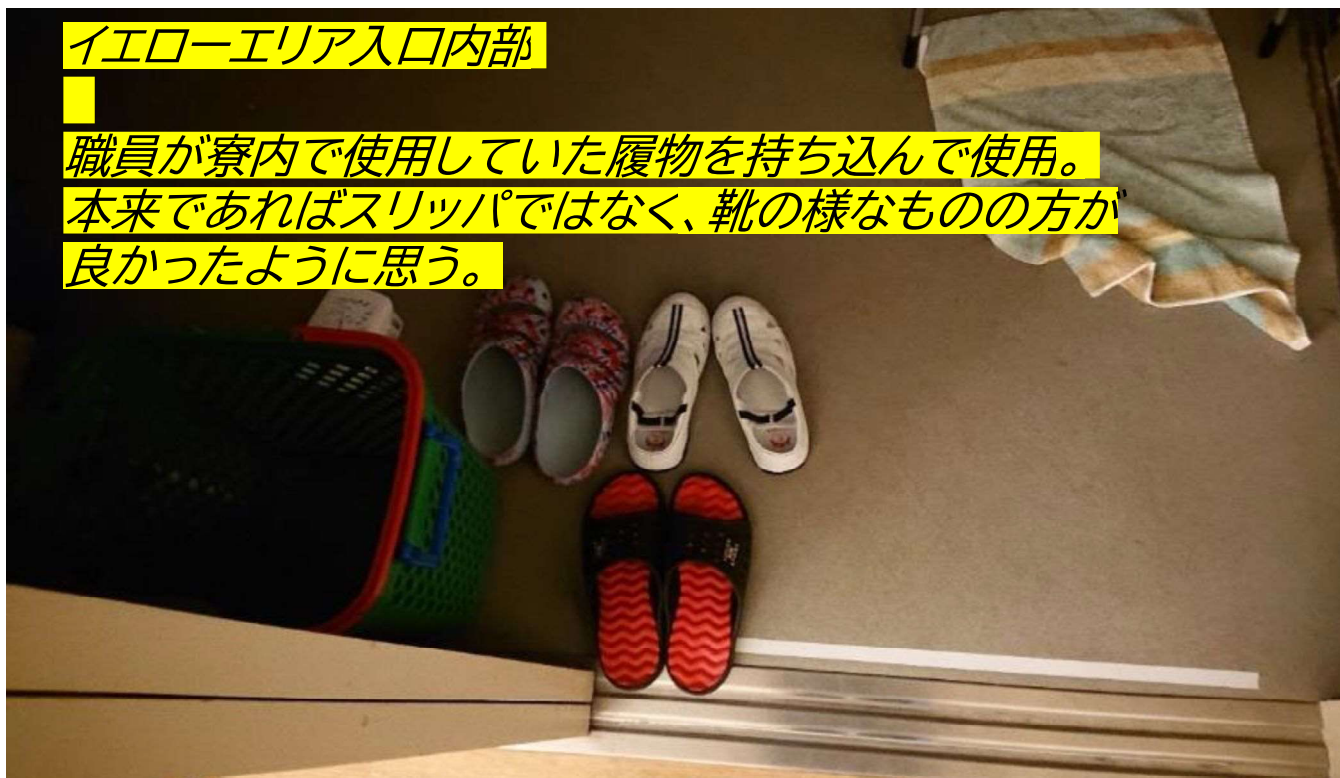
イエローエリア 入口②

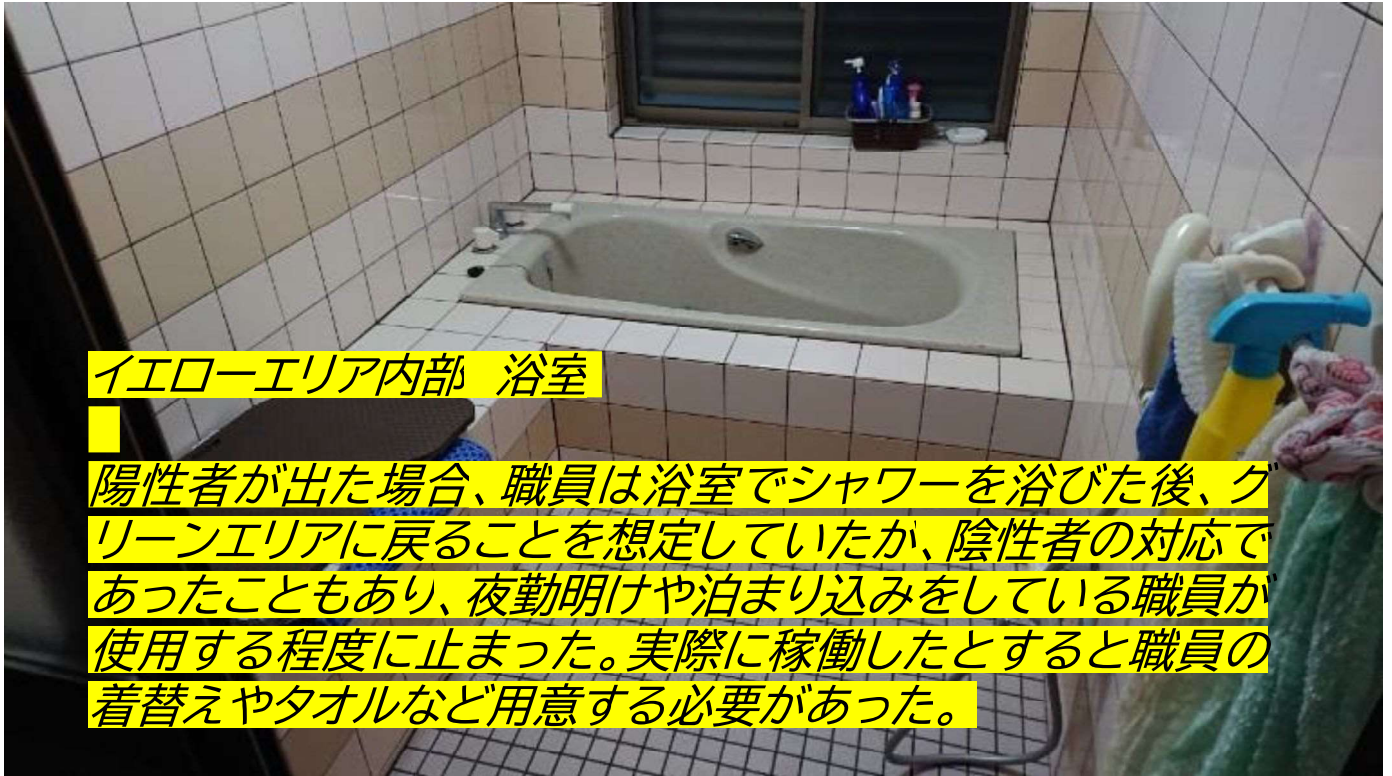
グリーンエリアで履く履物とイエローエリア以降で履く履物を分けた。靴底を介してウイルスが移動する事が想定されるため、グリーンエリア内に持ち込まないように配慮した。



イエローエリア入口内部

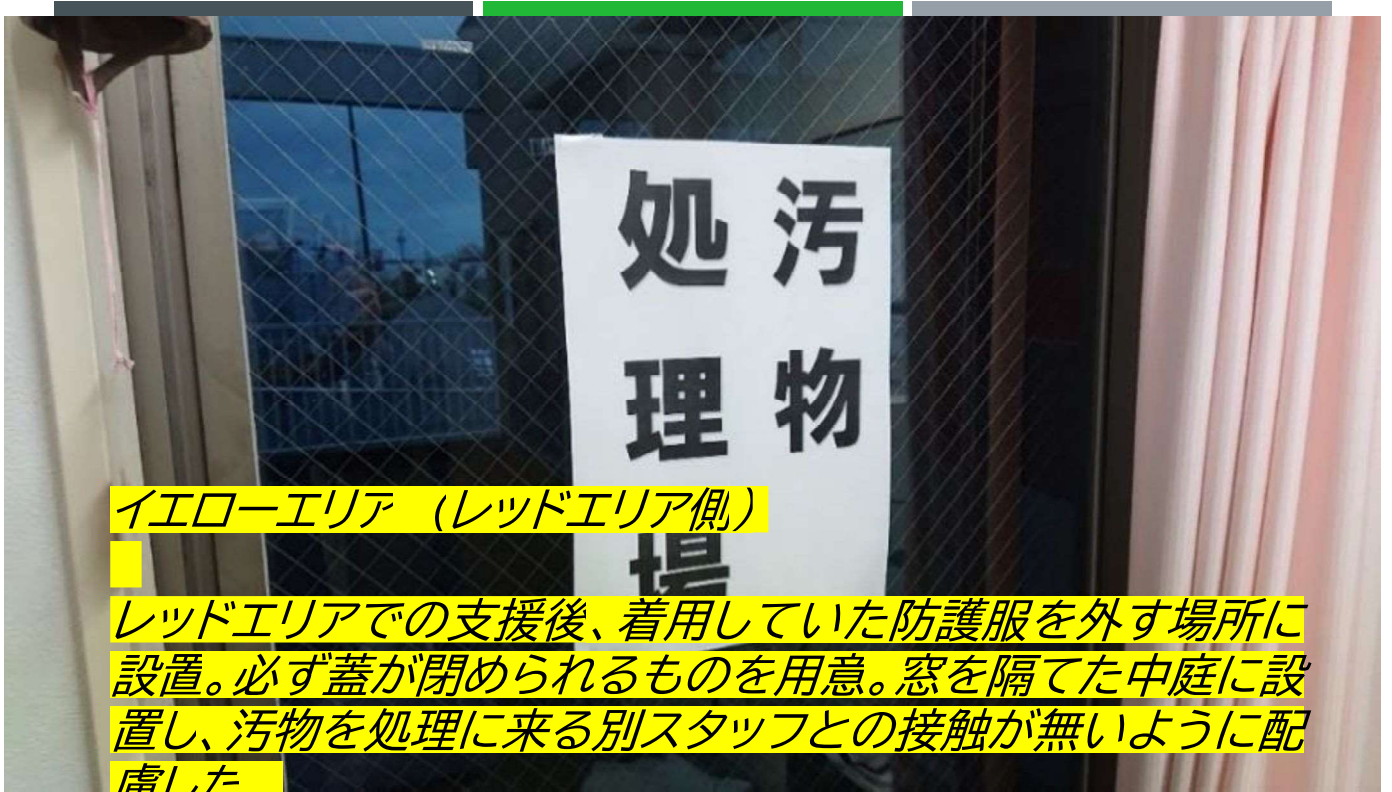
職員が寮内で使用していた履物を持ち込んで使用。本来であればスリッパではなく、靴の様なものの方が良かったように思う。





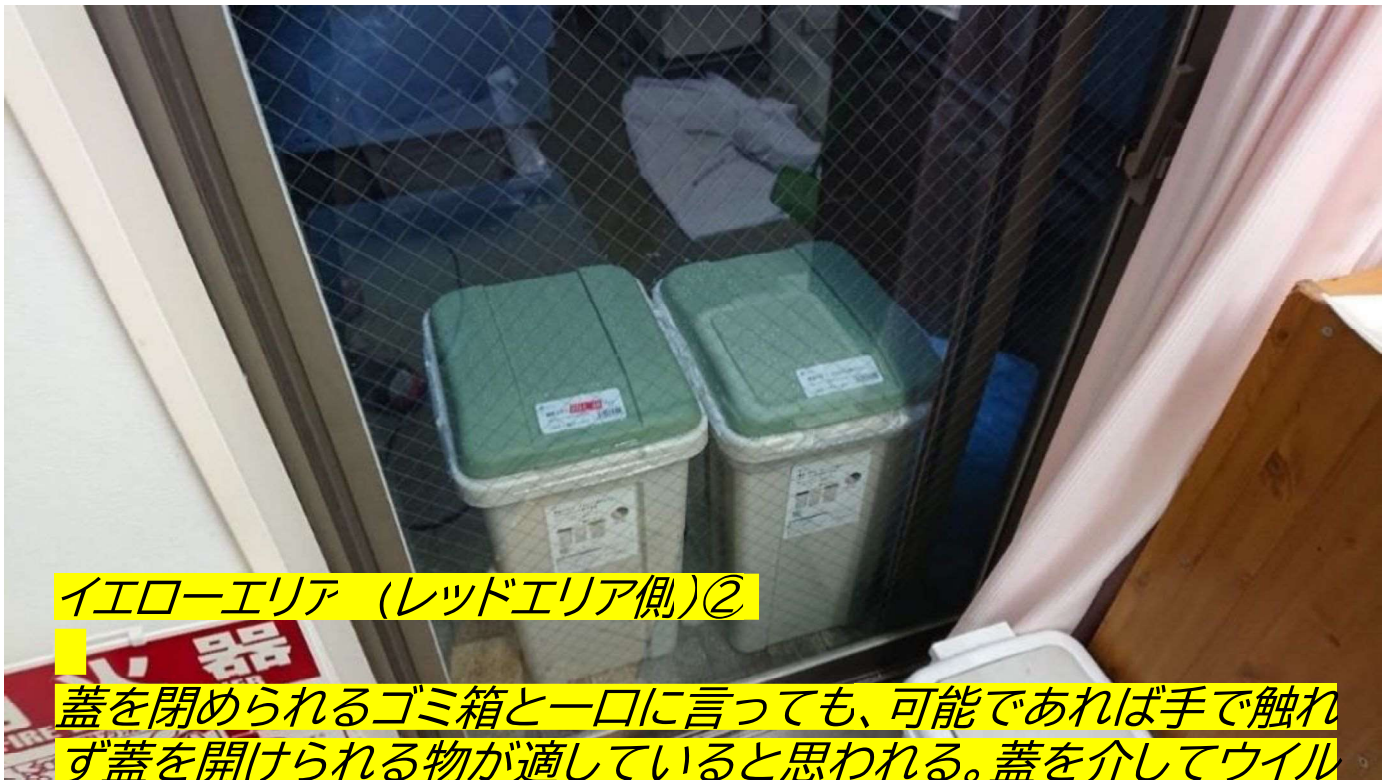
イエローエリア内部 浴室

陽性者が出た場合、職員は浴室でシャワーを浴びた後、グリーンエリアに戻ることを想定していたが、陰性者の対応であったこともあり、夜勤明けや泊まり込みをしている職員が使用する程度に止まった。実際に稼働したとすると職員の着替えやタオルなど用意する必要があった。



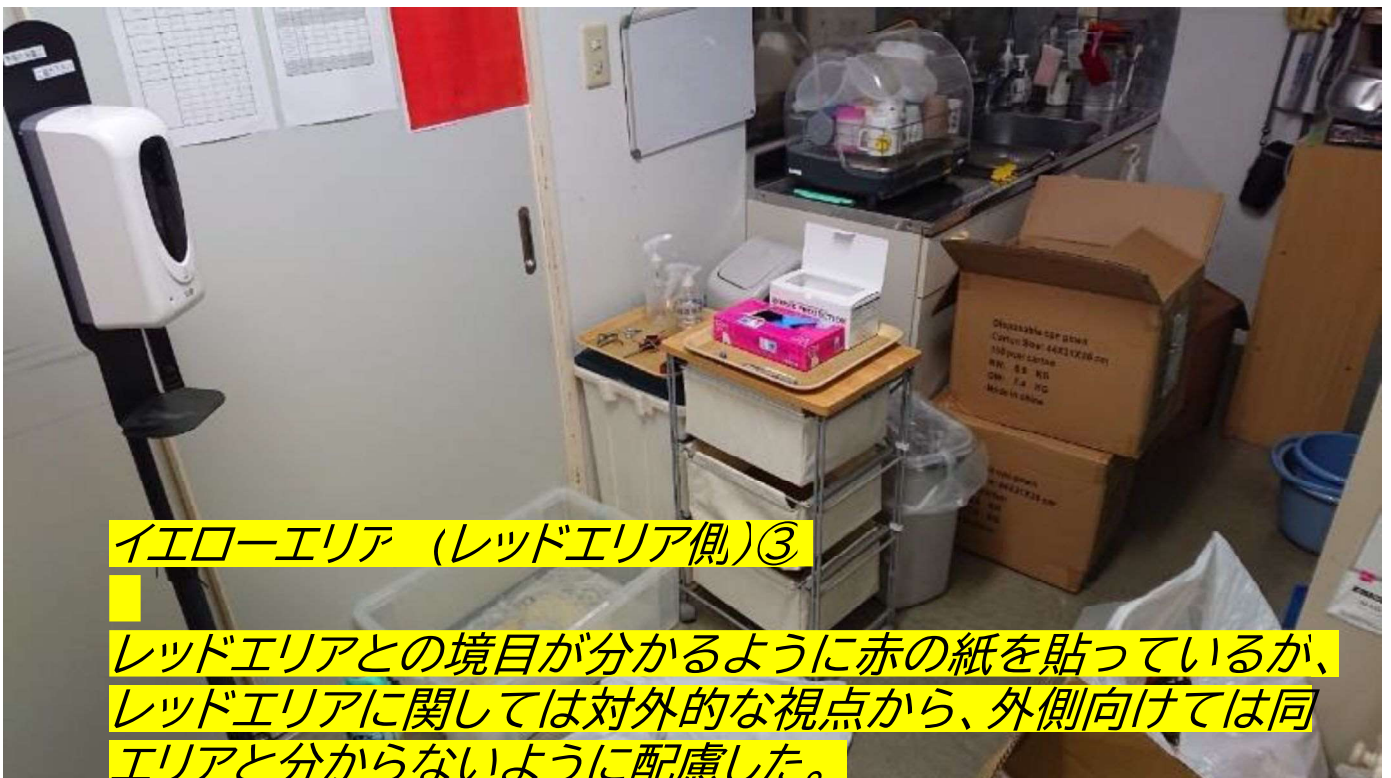
イエローエリア (レッドエリア側)

レッドエリアでの支援後、着用していた防護服を外す場所に設置。必ず蓋が閉められるものを用意。窓を隔てた中庭に設置し、汚物を処理に来る別スタッフとの接触が無いように配慮した。



イエローエリア (レッドエリア側)②

蓋を閉められるゴミ箱と一口に言っても、可能であれば手で触れず蓋を開けられる物が適していると思われる。蓋を介してウィルスを隔離棟外に持ち出してしまう恐れがあった。



イエローエリア (レッドエリア側)③

レッドエリアとの境目が分かるように赤の紙を貼っているが、レッドエリアに関しては対外的な視点から、外側向けには同エリアと分からないように配慮した。